

今月の

ブックトーク

この声が聞こえますか？

鈴木 千尋／和光小学校学校司書

夜になると虫たちの声が出て秋の気配を感じますね。今日はいろいろな声が出てくる本を紹介します。

『近所の虫の飼いかた ～スズムシ・バッタ・カマキリほか～』この本は虫の飼いかたや観察の仕方が書かれたシリーズの第4巻目で多くの鳴く虫が載っています。面白いのはコオロギで、鳴き方で感情を表すといわれ場面により鳴き方が違うそうです。飼育箱に雄1匹で入れた時、雄雌一緒に入れた時、雄同士にした時でそれぞれ鳴き声が違うのです。また、スズムシは前足に耳があることや、声を出すしくみも書かれています。この本を読んで皆さんも虫を探して、鳴き声に耳を澄ませてみてはいかがでしょうか？



海野 和男、筒井 学、高嶋 清明・文・写真 偕成社

さて次は、なき声はなき声でも「誰かの不思議な泣き声」が聞こえてきた話です。『秘密の花園』の主人公のメリーはイギリスの10歳の女の子。父親の仕事で、両親と共にインドで暮らしており気難しくわがままに育っていました。ある時流行りの病で



フランシス・ホジソン・バーネット・作 猪熊 葉子・訳 堀内 誠一・画 福音館書店

そんな中、夜中に不思議な泣き声が聞こえてきました。この声は前にも聞こえたことがあり、気になったメリーはついにその声をする部屋を探し出しまし

両親が亡くなり一人ぼっちになってしまい、イギリスのおじさんの家に預けられることになりました。メリーはそこで、10年間誰も入ったことのない庭があるのを見つけました。使用人の弟のデイコンと親しくなり、その庭を秘密の花園と名付け、2人は誰にも内緒で庭を蘇らせようと考えます。

た。この声の正体が、庭の秘密にも関係していたのです。一体誰の声なのか。そして、メリーたちは庭を花園に蘇らせることができるのでしょうか。

次は不思議な声を聞くことができる力を持った人の話。『どろぼうのどろぼん』に出てくるどろぼんはこれまで1000回以上どろぼうをしているけれど、一度も捕まらず警察に追いかけられたことすらありませんでした。なぜなら、どろぼんが盗み出していたのは持ち主に忘れ去られた物だけだから。彼には物の声が聞こえるのですが、それは「持ち主に忘れられてしまった物、なくなっても気が付かない物、自分はなくなった方がいいと思っている物」の声だけ。どろぼんはそんな物たちの苦しい声を聞いて、救い出していたのです。ところが、ある雨の日にどろぼんは警察に自分はどろぼうだと話しました。あるものを盗んだことが原因のようです。どうということなのか、ぜひ読んでみてください。



斉藤 倫・作 牡丹 靖佳・画 福音館書店

どろぼんのようにモノの声を聞く能力はなくても、「声なきものたち」の声私たちに聞こえてくる写真絵本を紹介します。『さがしています』この絵本は広島平和記念資料館に所蔵されている遺品を語り部として、原爆で亡くなった人たちがその直前までどんなことをしていて、どんなふう生きていたのかを伝えてくれます。この声なき語り部たちの声をくみ取って言葉にしてくれたのはアメリカ人の詩人アーサー・ビナードさんです。この声に耳を傾けて、私たちと同じように毎日を懸命に生きていた人々のことを感じてみてください。



アーサー・ビナード・作 岡倉 禎志・写真 童心社

最後のページのクイズの答え Q1 ② おおぐま座 Q2 ④ 安土桃山時代 Q3 ③ 十辺舎一九 Q4 ② メロン

※「今月のブックトーク」「図書館クイズ」は、全国学校図書館協議会Webサイトに掲載しています。QRコードより、PDFもご利用ください。

